

## 特記仕様書

1 業務名 令和8年度 高根橋現況調査・補修設計業務

2 業務目的

本業務は道路橋定期点検において損傷が確認されている高根橋について、現況の状態を把握し、最適な補修工法を決定した上で修繕工事に向けて、経済的かつ合理的な工事費用を予定するための資料を作成するものである。

3 業務箇所 南箕輪村 高根橋（別紙参照）

4 履行期間 契約日から令和9年1月29日

ただし、概算工事費用は令和9年10月30日までに中間打ち合わせで報告すること。

5 配置技術者

管理技術者および照査技術者（管理技術者との兼務不可）は、技術士、RCCM、または建設コンサルタント技術管理者認定制度における認定技術管理者の「鋼構造及びコンクリート部門」の資格保有者又はこれと同等の能力と経験を有する技術者でなければならない。

6 疑義

仕様書に記載のない事項及び疑義が生じた場合は、発注者と受託者協議の上これを定めるものとする。

7 瑕疵等

本業務が完了し、受託者の責において帰すべき理由により過失疎漏に起因する不良箇所が発見された場合は、速やかに訂正し、補足、その他の措置を受託者の費用により行わなければならない。

8 損害の負担

業務にあたり、受託者に生じた損害又は第三者に与えた損害は、すべて受託者が負担するものとする。

## 9 業務内容

### 1) 事前調査

現地踏査及び基本計画の作成を行うものである。

#### ① 現地踏査

調査の基本計画を作成するための現地を踏査するもので、機械及び材料の搬入出経路、仮設の要否及び規模、交通量、交通規制、橋梁の変状程度、その他調査を実施するために必要な現場の概況を調査記録（写真撮影を含む）する作業。

#### ② 基本計画

既存の橋梁データの収集及び現地踏査に基づき現況の設計諸元を整理の上、作業方法・作業手続等を検討し、業務の計画書を作成する作業。なお、橋梁データは発注者から貸与を受けること。（貸出可能なデータ資料は点検記録等）

### 2) 形状調査

主要構造寸法を測定し、現況の構造図（側面図、平面図、付帯設備等）を作成し、報告書に添付するものとする。

### 3) 外観変状調査

各構造部材の外観変状を調査記録（写真撮影を含む）し、報告書に添付するものである。また、各種試験を行う場合はその結果についてとりまとめ、報告書に添付する。

添付資料の構成は下記のとおりとする。

#### ① 一般事項

#### ② 構造概要

#### ③ 変状部分の種類及び程度、説明事項、特記事項

#### ④ 変状図

#### ⑤ 各種試験結果

#### ⑥ クラック状況図（クラック注入をする場合は、数量の把握まで行う）

#### ⑦ まとめ（原因とその対策、補修方針等）

#### 4) 詳細調査

現地調査及び変状調査の結果、必要と判断される場合には発注者と協議の上、詳細調査及び各種試験分析を実施する。

#### 5) 関係機関等の協議

河川管理者及び道路管理者との協議を十分行い、点検時など通行規制関係について十分留意する。特に地元への考慮をする。必要に応じて修繕工事に必要な書類の用意を行う。

#### 6) 補修設計（構造計算を伴わない）

調査結果に基づき補修設計を行うもので、構造計算を行わない補修設計に適用する。補修工法の選定、図化、数量計算、照査、報告書作成までを含む。（また、特殊な工事についての工事特記仕様書の作成を含む。）

- ① 補修工法の選定
- ② 床版補修
- ③ 桁補修
- ④ 下部工補修
- ⑤ 橋面補修（防水層含む）
- ⑥ 排水装置補修
- ⑦ 概算工事費算出

#### 7) 打合せ協議

打合せ協議は下記を標準とする。中間打合せは必要な回数を実施する。

- ① 業務着手時
- ② 中間打合せ(2回：現況調査完了後、概算費用算出後を予定)
- ③ 成果品納入時

#### 8) 報告書作成

本業務の成果品として、以下の成果品を提出する。

- |   |                    |    |
|---|--------------------|----|
| 1 | 報告書                | 1部 |
| 2 | 上記成果品の電子データ（CD-R等） | 2部 |

成果品の電子データについては、ウイルス対策を実施した上で納品するものとする。

### 3 その他監督職員の指示するもの

成果品は、設計業務共通仕様書（共通編）〔長野県令和7年10月1日適用〕3-2-11に準じて作成するものとする。なお、下記の項目について解説してとりまとめて記載した設計概要書を作成するものとする。

工法の比較検討にあたっては、新技術等の比較検討を行い、費用の縮減や事業の効率化などに取り組むとともに、新技術の活用検討の結果により、新技術等を活用する場合には、従来技術からの縮減額や縮減日数を算出する。

- ① 現橋の設計諸元
- ② 外観変状調査（及び各種試験結果）
- ③ 工法選定の経緯及び選定理由（工法比較表）
- ④ 構造各部の検討内容及び問題点、特に考慮した事項
- ⑤ 主要材料、工事数量の総括
- ⑥ 施工段階での注意事項・検討事項
- (⑦ 工事特記仕様書)